

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分、「一部令和3年度分を含む」)

静岡県立浜松視覚特別支援学校

# 目 次

事務事業の概要 .....	1
事務執行の根拠法令調 .....	20
学校施設の概要 .....	21
在籍生徒調 .....	23
入学志願者及び入学者数調 .....	25
卒業生の動向調 .....	26
生徒の状況 .....	27
預金調 .....	29
郵券等受払調 .....	30
委託料等歳出予算執行状況節別集計表 .....	31
委託料に関する調 .....	32
負担金支出調 .....	36
建築工事調 .....	37
繰越工事調 .....	38
公有財産調 .....	39
借地借家等調 .....	40
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調 ...	41
行政財産貸付・使用許可調 .....	42
普通財産・借受財産貸付調 .....	43
職員公舎管理状況調 .....	44
主要備品調 .....	45
職員調 .....	1
職員の年齢調 .....	4
健康管理 .....	5

# 事務事業の概要

## 1 概況

### (1) 学校の沿革

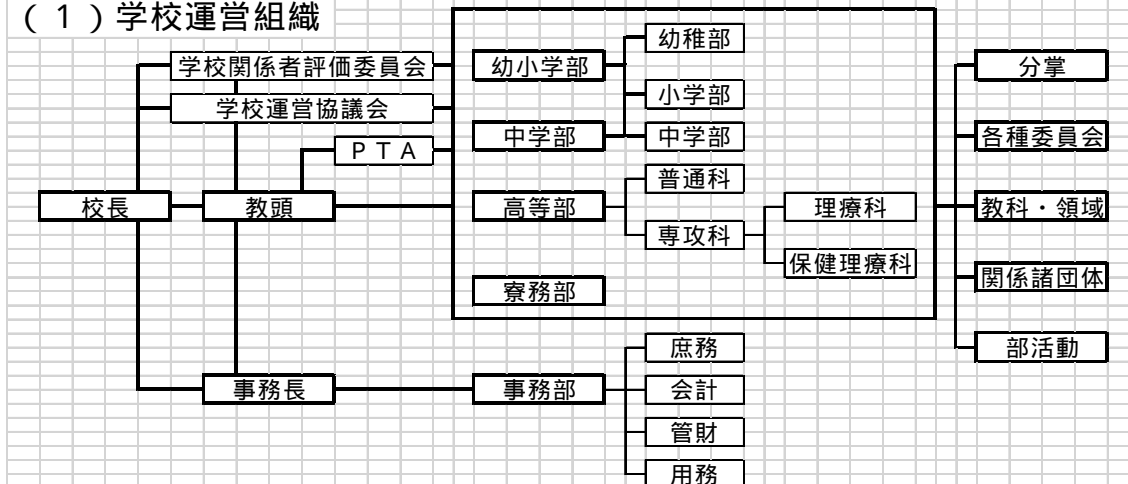
- 大正10年11月3日 浜松市鴨江町に私立浜松盲学校を創設する
- 12年4月1日 浜松聾啞学校を併設する
- 13年4月1日 設立認可を受ける
- 15年4月1日 静岡県立代用校となる
- 昭和20年6月18日 戦災により校舎が全焼する
- 20年7月5日 財団法人を申請し認可される
- 21年5月2日 浜松市追分町国立浜松病院分院を借用し、授業を開始する
- 23年4月1日 県立に移管し、静岡県立浜松盲学校となる
- 23年10月30日 校舎の改築工事が完成する
- 26年9月1日 併設の県立浜松聾学校が新校舎へ移転する
- 28年1月31日 高等部理療科及び別科が認定される
- 34年3月28日 専攻科の設置が認定される
- 37年12月1日 創立40周年式典を挙げる
- 39年8月11日 現在地に校舎を竣工する
- 39年8月19日 新校舎への移転が完了する
- 39年10月10日 寄宿舍を竣工する
- 40年8月13日 体育館・講堂を竣工する
- 40年11月5日 校舎及び体育館の落成式を挙げる
- 46年3月24日 二部専攻科の設置が認定される
- 47年11月5日 創立50周年記念式典を挙げる
- 48年4月1日 県内の盲学校高等部が本校に統合する  
普通科、家政科、音楽科、保健理療科、専攻科理療科並びに幼稚部  
を新設する
- 48年9月25日 新寄宿舍を竣工する
- 49年2月18日 プールを竣工する
- 49年3月22日 運動場を拡張する
- 49年3月31日 高等部別科あん摩科が学制改革に伴い自動的に廃止される
- 51年3月16日 新校舎（4階建）の一部を竣工する
- 51年3月27日 プールの更衣室等を竣工する
- 52年4月1日 静岡県立盲学校学則の一部改正により高等部別科を置く
- 54年3月15日 新校舎（4階建）を増築する
- 55年3月6日 新体育館を竣工する

- 57年11月13日 創立60周年を記念式典を挙げる
- 59年3月26日 小ブール(6×3.5)を竣工する
- 61年10月15日 管理棟の耐震補強等の工事が完了する
- 平成元年12月6日 文部省から「学校週5日制」の研究協力校に指定される
- 2年4月1日 静岡県立盲学校学則の一部改正により高等部別科及び家政科、音楽科が廃止される
- 2年4月1日 学校週5日制研究1期1年次の取り組みとして、月1回の土曜日を休業日とする
- 3年4月1日 学校週5日制研究1期2年次の取り組みとして、第2・4土曜日を休業日とする
- 4年5月19日 学校週5日制研究2期1年次の取組として、第2・4土曜日を休業日とする
- 4年11月22日 創立70周年記念式典を挙げる
- 5年3月30日 点字情報ネットワークシステムを導入する
- 5年4月1日 学校週5日制研究2期2年次の取組として、第2・4土曜日を休業日とする
- 6年9月20日 教室棟前庭通路(砂場)を整備する
- 7年3月24日 厨房空調機を設置する
- 7年9月27日 防球ネットを設置する
- 9年3月5日 受水槽を設置する
- 9年4月1日 静岡県立盲学校学則の一部改正により高等部保健医療科は分室のみとし、本校に専攻科保健医療科を設置する
- 9年12月1日 寄宿舎の耐震補強工事が完了する
- 10年8月31日 新館の耐震補強工事が完了する
- 11年8月4・5日 第74回全日本盲学校教育研究会を主管する
- 11年9月10日 義務教育棟を解体撤去する
- 12年4月1日 文部省から新教育課程推進実践研究校に指定される
- 12年8月11日 普通教室棟(義務教育棟)を竣工する
- 13年11月30日 文部省指定新教育課程推進実践研究校として発表する
- 14年4月1日 学校評議員制度を導入する
- 15年4月1日 県教育委員会から学校図書館活性化事業協力校に指定される
- 16年2月27日 体育館の改修工事が完了する
- 16年4月1日 学校図書館活性化事業協力校として2年目の研究を行う
- 16年4月23日 文部科学大臣から読書活動優秀実践校として表彰される
- 16年12月10日 講堂の耐震補強工事が完了する
- 18年4月1日 県教育委員会から教職員評価制度研究協力校に指定される

- 19年4月1日 学校教育法の一部改正により特別支援教育が始まる
- 20年4月1日 静岡県立学校設置条例及び静岡県立特別支援学校学則の一部改正により、校名を静岡県立浜松視覚特別支援学校とする  
県教育委員会から学校防災推進協力校に指定される
- 20年8月21・22日 第23回全国盲学校野球（グラウンドソフトボール）浜松大会を主管する
- 21年4月1日 県教委指定の学校防災推進協力校として2年目の研究を行う
- 21年8月19-21日 第24回全国盲学校野球（グラウンドソフトボール）岩手大会で優勝する
- 21年12月11日 県教委指定の学校防災推進協力校事業報告を行う
- 22年4月1日 県教育委員会から電子黒板の授業活用研究モデル校に選定される
- 25年3月15日 災害用仮設トイレを設置する
- 27年2月13日 太陽光発電装置を設置する
- 27年10月1日 第84回全国盲学校弁論大会を主管する
- 27年8月21日 全国盲学校野球大会(岡崎市)で、東海選抜チームとして優勝する
- 28年8月25日 全国盲学校野球大会(石狩市)で東海選抜チームとして2連覇達成
- 28年11月22日 全国盲学校野球大会2連覇に対して県教育委員会より表彰を受ける
- 29年10月6日 第86回全国盲学校弁論大会全国大会で専攻科2年生が最優秀賞を受賞する
- 29年11月25日 科学ヘジャンプin浜松2017を主管する
- 30年2月3・4日 第19回全国視覚障害早期教育研究会浜松大会を主管する
- 令和元年5月31日 普通教室22室に空調機を設置する
- 2年4月1日 県教委指定の交流籍を活用した研究推進協力校として指定を受ける
- 2年6月3日 第20回はごろも教育助成賞助成（複数年）を受け、研究を開始する
- 2年8月28日 特別教室15室に空調機を設置する
- 3年10月29日 創立百周年記念式典を挙げる

## 2 学校運営

### (1) 学校運営組織



#### ア

- ・教育相談支援課
- ・生徒指導課
- ・教務課
- ・進路指導課
- ・情報課
- ・図書課
- ・研修課
- ・保健課
- ・自立活動課

#### イ 各種委員会

- ・企画会(学校評価委員会)
- ・防災対策委員会
- ・入学者選考委員会
- ・寄宿舎検討委員会
- ・教科用図書選定委員会
- ・校内コンプライアンス委員会
- ・校内医療的ケア検討委員会
- ・スクールバス委員会・連絡会
- ・デジタル図書作成管理委員会
- ・運営委員会
- ・学校保健委員会
- ・施設開放委員会
- ・情報管理委員会
- ・体育大会実行委員会
- ・保健対策委員会
- ・職員安全衛生委員会
- ・交流及び共同学習推進委員会
- ・寄宿舎運営委員会
- ・校内就学支援委員会
- ・人権教育推進委員会
- ・生徒指導委員会  
(いじめ対策含)
- ・六葵祭実行委員会
- ・給食検討委員会  
(献立・物資 衛生含)
- ・合理的配慮対策委員

### 3 目指す学校像

- 幼児児童生徒が自ら学び、「社会に生きる確かな力」を身に着ける学校
- 保護者や地域から信頼され、共生社会の実現に向けてその使命を果たす学校
- 教職員が主体的に学校運営に参画し、助け合って協働する学校

#### (1) 教育目標 「よりよく生きるために」

豊かな心と健やかな体、挑戦する意志を持つ人を育てる。

- ・豊かな心 互いを認め合い、人との関わりを大切にする豊かな心
- ・健やかな体 心身の健康と体力の向上、運動への意欲、障害理解
- ・挑戦する意志 自ら学ぶ力、自身の未来を逞しく切り拓こうとする志

< 自立と社会参加 >

#### (2) 目標具現化の柱

##### 【授業・専門性】

ア 視覚障害教育の専門性の向上と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（ICT 機器の活用推進）

イ 社会に生きる確かな力をつけるための教育課程編成

ウ 卒業後を見据え、障害や発達段階に応じたキャリア教育の充実

##### 【安全・安心】

エ 自他の良さを認め合い、命と人権を大切にする安全・健康教育、人権教育の推進

オ 実質的な危機管理体制の構築と緊急時対応力の向上

カ タイムマネジメントを意識した業務改善とコンプライアンス

##### 【連携・協働】

キ 特別支援教育・視覚障害センターとしての機能の充実

ク 保護者、地域、関係機関への教育活動の効果的な発信と連携の強化

ケ 地域との協働につながる地域資源の活用

#### (3) 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

##### (1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	評価	成果と課題
授業・専門性	ア 視覚障害教育の専門性の向上と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（ICT 機器の活用推進）	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の実態に応じた支援を通して学習を進めることで知識技能の定着を促すことができた。今後は幼児児童生徒のニーズも考慮した支援をし、実践を続けていく。</li> <li>・専門家の指導助言を受け、子供の実態把握や指導に生かすことができた。授業実践に生かすためにも指導助言を学部、学校全体の学びに生かせるように工夫をする。</li> </ul>

		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の研修を授業実践に生かすことができるようになってきた。今後も幼児児童生徒のニーズに合わせた情報機器を活用できるように取り組みを続けていく。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての授業において活用するまでには至っていないが、研修を積むことでICT機器に関する知識等は育ってきている。引き続き研修を積み重ね実践に繋げていく。</li> </ul>
		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの先生にとって外部講師を招聘した研修が有意義な研修となっている。今後も学部、科のニーズに合わせた外部講師を招聘して研修を深めていく。</li> </ul>
	イ 社会に生きる確かな力をつけるための教育課程編成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を通して幼児児童生徒の深い学びの姿の具現化、授業、学習評価及び改善点の提案ができた。今後は授業改善に重点をおいた授業研究サイクルを整えていきたい。</li> </ul>
	ウ 卒業後を見据え、障害や発達段階に応じたキャリア教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の効果がすぐに出るものではないことを念頭に置きながら、キャリアパスポートを利用した指導や生活支援を継続していく。</li> </ul>
安全・安心	エ 自他の良さを認め合い、命と人権を大切にする安全・健康教育、人権教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の書籍を利用して人権教育の指導に取り組んでいく。</li> <li>・幼児児童生徒と職員、職員同士の人権を尊重した関りだけでなく幼児児童生徒自身の人権意識が向上するよう取り組んでいく。</li> </ul>
		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会や各種委員会の活動で児童生徒の主体的に活動する場を設けた。さらに場面を設定し広げていきたい。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の中には自分自身で健康に過ごすことを意識していない様子が見られる。必要な幼児児童生徒には、自己で健康意識の向上が図れるよう支援をしていく。</li> </ul>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育だよりや「ふるさと給食」「全国学校給食週間、ふるさと給食週間」などを企画して</li> </ul>



			実践したが、継続して食に関することの投げかけができなかった。週間行事予定に「食育ワンポイントアドバイス」などを掲載し職員への啓発を充実させる。
	オ 実際の危機管理体制の構築と緊急時対応力の向上	C  A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身が防災計画書に書かれている役割ができるか自己評価できるようにする。</li> <li>・緊急時の対応で先生方の知りたいことや深めたいことを聞き取り、内容を考えていく。</li> <li>・重大な事故が起きずに良かった。さらに注意をしていきたい。</li> <li>・マニュアルのすべて把握するのは難しいが大まかな流れを把握し、有効となる安全教育を実施する。</li> <li>・今後も様々な状況や場面を想定した訓練を実施することで児童生徒が自分で考えて安全な行動ができるよう支援していく。</li> </ul>
	カ タイムマネジメントを意識した業務改善とコンプライアンス	C  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・負担の多い仕事が重なることがないように学校・学部運営をしていく。</li> <li>・教職員の情報漏洩に関する意識が高まっている。意識が継続できるよう投げかけを続けていく。</li> </ul>
連携・協働	キ 特別支援教育・視覚障害センターとしての機能の充実	A  A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き歩行訓練士、視能訓練士等との連携を続けることで職員の視覚障害の専門性を深めていく。</li> <li>・資料やパワーポイントを作成し視覚的に理解できるようにしたり、実際の支援機器を持ち出したりして提示することで、視覚障害に対する理解や支援に対する理解が深まった。</li> <li>・年度始めの関係機関の訪問により、情報交換や相談につながることでできた。</li> </ul>
	ク 保護者、地域、関係諸機関への教育活動の効果的な発信と連携の強化	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開では、本校の説明だけでなく授業、寄宿舎見学、支援機器の紹介、本校生徒の発表と午前中ではあったが参加者には多くの情報を提供することができ、アンケートも高評価であった。来年度も続けていく。</li> </ul>

		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ活動が普通にできるようになってきているので各種行事で人や地域とつながることができるよう配慮していく。</li> <li>・放課後支援機関や医療機関との連携を充実させ共通理解をして支援に当たるようにする。</li> <li>・学部・舎・分掌の活動や取組をタイムリーに更新することができた。HPだけでなく様々な発信を考えていく。</li> </ul>
	ケ 地域との協働につながる地域資源の活用	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の準備をすることで1回の交流が有効になる。相手校との情報共有をしっかりとしていきたい。</li> <li>・体験学習を積み重ねていくことで児童生徒の実践力を伸ばすことができた。さらに広げていきたい。</li> </ul>

(2) 令和5年度 of 取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当
楽しく学び思考力を高める授業づくり	ア 視覚障害による学習上・生活上の困難を改善し豊かに生活するための基礎力と問題解決力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触察や概念形成、言語活動を重視し基礎学力の定着を図る授業づくり</li> <li>・県内3視覚特支間の教材共有推進</li> <li>・専門家から積極的に学び学部内で共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の基礎学力の定着を図ることができたと評価する職員90%以上</li> <li>・教材共有への貢献又は活用ができたと評価する職員80%以上</li> <li>・視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を授業実践等に生かし学習効果が高まったと評価する職員90%以上</li> </ul>	各学部 自立活動課
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・深い幼児児童生徒理解に基づいた教育課程の編成</li> <li>・障害特性や発達課題に即した指導計画の作成及び活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、よりよい学びにつながったと評価する職員90%</li> <li>・個別の指導計画を有効に活用できたと評価する職員70%以上</li> </ul>	各学部 教務課
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に問題及び課題を発見し解決後のゴールをイメージできる学習場面の設定</li> <li>・一人1授業公開及び学部を越えた授業研究の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒が楽しく学び、主体的に課題を解決する態度が育ったと評価する職員80%</li> <li>・授業参観や授業研究等を通じた授業改善により、担当幼児児童生徒の学習効果が高まったと評価する職員70%</li> </ul>	研修課
	イ ICT機器や様々な情報コンテンツを有効活用するための経験拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器やアプリ等の研修会、ミニ学習会等の実施</li> <li>・図書室整備・改造計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する児童生徒のICT機器等への興味関心や活用力が昨年度より向上したと評価する職員70%</li> </ul>	図書課 情報課 自立活動課

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
	ウ 世界に目を向けて課題を発見する力とキャリア発達に必要な基礎力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs 取組校の紹介</li> <li>・視野を広げる校外学習の充実</li> <li>・自己理解を深めるためのキャリアパスポート作成及び有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する児童生徒の視野が広がり、SDGs や世界情勢等への関心が広がったと評価する職員 70%</li> <li>・キャリアパスポートを有効活用し、児童生徒の自己理解が深まり社会参加への意欲が高まったと評価する職員 70%</li> </ul>	小中学部 普通科 進路指導課 寄宿舎
安全で豊かな学校生活	エ 自身の健康・栄養に関する深い理解と体力・運動能力の維持・増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の健康を見つめ生活習慣を見直す保健指導</li> <li>・「心の健康」への関心を高める学習会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の健康を意識し生活習慣の改善が図れた児童生徒 10 人以上</li> <li>・「心の健康」を意識し生活習慣の改善が図れた児童生徒 10 人以上</li> </ul>	保健課 寄宿舎
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材への関心と理解を深める食育体験の充実</li> <li>・食に関する積極的な情報発信（ちょこっと食育）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食や食材に関する理解を深まった幼児児童生徒 15 人以上</li> </ul>	保健課
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国盲学校フロアバレーボール大会に向けた取組と部活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロアバレーボール等の視覚障害スポーツへの関心が高まった児童生徒 10 人以上</li> </ul>	各学部
	オ 安全な教育環境と危機管理体制の整備及び幼児児童生徒の緊急対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急及び不審者対応等の学習会の充実</li> <li>・緊張感のある安全点検実施</li> <li>・活用しやすい防災計画書の作成（詳細版と簡易版）</li> <li>・緊急時対応力向上のための学習会、臨時避難訓練の実施</li> <li>・浜松市、葵西自治会との連携及び緊急対策本部整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時に防災計画書を活用して行動できると考えている職員 100%</li> <li>・環境備品等の整備不良による事故 0</li> <li>・様々な非常時を想定し見通しの持てた児童生徒 15 人以上</li> <li>・緊急時対応訓練や研修、または、緊急時対応マニュアルの効果があつたと評価する職員 90%以上</li> <li>・福祉避難所設営計画の策定</li> </ul>	生徒指導課 保健課 寄宿舎
	カ 仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権をテーマとした道徳、読書活動、学級活動の充実</li> <li>・主体性と互いを認め合う力を育成する学級活動、部活動、生徒会・委員会・自治会・舎生会活動等の充実</li> <li>・自己肯定感を高める場の設定、働き掛けの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識が高まり、相手の人権を尊重したかわりができたと評価する幼児児童生徒及び職員 70%以上</li> <li>・諸活動において自己肯定感を高める工夫ができたと評価する職員 80%以上</li> <li>・学校生活全体を通して、自己肯定感を維持できたと答える児童生徒 70%以上</li> </ul>	生徒指導課 寄宿舎 各学部 部活動
成長を支える支	キ 県西部地区視覚障害教育センターとしての相談・支援機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、園や学校、病院等と連携した教育相談の充実</li> <li>・視覚障害支援研修会、福祉体験学習、講演等外部要請への積極的な対応</li> <li>・効果的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家との有効な連携ができたと評価する職員 100%</li> <li>・質の高い相談支援（外部関係者の満足度 100%）</li> <li>・新規相談件数増加 10 件以上</li> </ul>	教育支援 相談課 専攻科

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
援体制	ク 幼児児童生徒が地域で豊かに生活するための基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流や「交流籍」を活用した交流及び共同学習の充実</li> <li>・地域防災訓練への参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流及び共同学習が有意義であったと評価する児童生徒、職員 80%以上</li> <li>・地域の行事等に参加する機会が増えたと答える児童生徒 30%以上</li> </ul>	各学部 教育支援 相談課
	ケ 保護者、地域、関係諸機関への教育活動の効果的な発信と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや学校公開、各種たより等を活用した広報活動による教育活動の啓発</li> <li>・効果的な情報発信方法模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開の内容が効果的だったと評価する参加者 100%</li> <li>・効果的発信方法の確立</li> </ul>	専攻科 情報課 教育支援 相談課

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UDブラウザの使用方法や情報機器研修会を実施することで職員が情報機器を授業等で生かせるようにする。また、情報機器の校内整備を進め、情報機器の運用規定の明確化を図るようになる。</li> <li>○主体性と互いを認め合う力を育成する学級活動、部活動、生徒会・委員会・自治会・舎生会活動等の取組を進める。</li> <li>○幼少・中学部では「交流籍」を活用した交流及び共同学習の推進し、地域とつながり、広く人とのかわりを深める学習活動の実践を図っていく。</li> <li>○高等部では、キャリア教育発達段階表を使って一人一人の生徒に応じたキャリア教育の推進を図り、進路目標の達成に繋げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報機器の研修を通して職員が情報機器を適切に使用し児童生徒の支援をした。情報機器の運用規定を定め、セキュリ－の保持に努めた。</li> <li>○様々な場面で児童・生徒が活躍できる機会を設け、児童生徒の主体性を育てお互いを認め合う力を育成できるようにした。</li> <li>○「交流籍」を活用した交流及び共同学習の推進し、対面方式やオンライン方式など工夫して地域とつながり、広く人とのかわりを深める学習活動を実践した。</li> <li>○個々のキャリア発達に応じたキャリアパスポートを作成し、学校生活全体を通して指導に生かした。</li> </ul>

	<p>○専攻科では、地域で行う校外実習や臨床実習を通して、利用者から信頼される理療師を目指すようにする。</p> <p>○寄宿舍では、生活経験の拡大や余暇活動の充実を図るため、舎生会活動で自分の意見を伝えたり、友達と協力したりできるようにする。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症予防対策のもとで校外実習や校内の臨床実習等の場を保障し、施術の向上に努めた。</p> <p>○寄宿舍の自治会活動や舎生会活動を通して、自らが企画したり友達と協力したりする場面を作り生活経験の幅を広げた。</p>
令和5年度	<p>○視覚障害による学習や生活する上で抱える困難を改善し、豊かに生活するために基礎力や問題解決力を身に付ける。</p> <p>○ICT機器や様々な情報コンテンツを使用する機会を設けることで、有効に活用するための経験を増やす。</p> <p>○幼小・中学部では、学校間交流や交流籍を活用した交流及び共同学習を推進し、地域とのつながりを深める学習を行う。</p> <p>○高等部では、他人を思いやる気持ちや様々な人と適切に関わることができる人の育成を目指す。</p> <p>○専攻科では、地域の協力で行う校外学習や臨床実習を通して、利用者から信頼される理療師を目指す。</p> <p>○寄宿舍では、生活経験の拡大や余暇時間を充実させるため、協力したり自分の意見を相手に伝えたりすることができるようにする。</p>	<p>○視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を授業実践等へ生かし、学習効果を高めることで児童生徒の生活へつながる授業を行う。</p> <p>○児童生徒のICT機器に対する興味関心が高まり、授業で活用する機会を増やすようにする。</p> <p>○交流籍を活用した交流及び共同学習を推進し、直接交流や間接交流など地域と関わる学習活動を実践する。</p> <p>○主体性と互いを認め合う力を育成する学級活動、部活動、生徒会活動等の充実した実践を図る。</p> <p>○校外実習や校内の臨床実習に取り組み、施術の向上に努める。</p> <p>○舎生会活動を通して、自ら企画したり、友達と協力したりする場を増やす。</p>

## 5 教職員について

(1) 令和4年度異動状況

(単位：人)

職名 区分	本務職員								任期付・会計年度任用職員										合計	
	教育職員					行政職員			本務計	教諭(任)	教諭(臨)	実習助手(臨)	寄宿舎指導員(任)	寄宿舎指導員(臨)	乳幼児発達支援指導員	非常勤講師	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		臨時計
	教頭	教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	小計												
退職者		2			2	1		1	3	1	6	1	2	4	1	4	2	6	27	30
転出者		1		1	2		1	1	3											3
昇任(減)	1				1				1											1
再任用(退職)		1			1				1											1
転入者	1	3	1	1	6	1		1	7											7
新任者				1	1				1		5	1	1	4	1	1	1	6	20	21
再任用(増)									0											0
差引増減	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	3	1	0	7	7

(2) 現員数

(令和5年4月1日現在)(単位：人)

職名 区分	本務職員													臨時・任期付・会計年度任用職員										合計	
	教育職員							行政職員						本務計	教諭(任)	教諭(臨)	実習助手(臨)	寄宿舎指導員(任)	寄宿舎指導員(臨)	非常勤講師	乳幼児発達支援員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員		臨時計
	校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	主事	小計												
男	1	0	19	0	0	0	2	4	26	0	1	1	2	28	0	3	0	0	0	1	0	1	4	9	37
女	0	1	14	1	1	1	0	1	19	1	0	1	2	21	0	2	1	1	4	0	1	0	2	11	32
計	1	1	33	1	1	1	2	5	45	1	1	2	4	49	0	5	1	1	4	1	1	1	6	20	69

( 3 ) 健康管理について

取組事項	具体的内容
健康診断（結核検診、生活習慣病健診等）による疾病の早期発見・早期治療	再検査、治療、経過観察など事後措置を徹底するとともに、健康管理医に健康診断結果を報告し、指導助言を仰ぐ。また、必要に応じて個別面談を実施する。
職場の健康づくり	健康管理医に助言を受けたり、「職場の健康づくり支援事業」を活用した職員の健康増進活動を実施したりするなど、健康意識を高める。
職場環境の整備	健康管理医による校内巡視や、職員安全衛生委員会委員による職場巡視チェック、衛生管理者による空気検査・照度検査などから問題点を話し合うことにより、改善・整備に努める。 職員室については、当番を決めて清掃している。
長時間労働者への指導	勤務時間外に業務に従事した時間の合計が45時間を超えた職員に対して、労働蓄積度自己診断チェックリストを用いて把握を行い、衛生管理者の保健指導や管理職の面談を行う。その後必要に応じて健康管理医による指導を実施する。

(4) 教職員の研修について

令和4年度		
研修の目的	研修内容	成果と課題
<p>(全校)</p> <p>一人一人が社会に生きる確かな力をつけるための支援の工夫 ～自分の考えや行動を広げ深める学びを目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・科、寄宿舍各研修グループで、それぞれの研修課題を踏まえた研修内容を設定し、研修計画にそってグループ研修を推進する。</li> <li>・学部・科では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業設計及び学習評価、さらには学習評価を生かした授業改善を行う。授業設計時に整理した学習評価を踏まえて、幼児児童生徒の表れや教師の支援を見とり、授業分析をする。寄宿舍では、生活課題の解決に向けた指導実践・指導改善を行う。定期的な形成的評価により、指導の見直し・修正を重ねていく。</li> <li>・校外研修の成果を校内で共有するため、報告会を実施する。県外出張については、年度末に全校での報告会を行う。県内の出張については、学部・舎研修で報告の時間を設定する。</li> <li>・各研修グループでは、それぞれのニーズに応じて、外部講師を招へいしての授業研究会・事例検討会・スキルアップ研修会等を実施する。客観的かつ専門的な視点から、授業や事例研究、実技指導についての指導・助言をいただく機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修グループが、グループの実情や直面する課題を踏まえて設定した研修テーマ、研修内容に沿って、P D C Aのフレームで、研修を進め、実践を重ねることができた。 【学校自己評価 A B評価 100%】</li> <li>・授業研究では、3つの学びの視点に分けた支援の整理、「深い学び」の姿の具体化、共通の指標による学びの見とり(学習評価)に注力することができた。また、授業後には、各グループの実情に合う形で、授業評価・学習評価を行い、改善点を整理することができた。</li> <li>・一方で、授業研究が、授業の改善点の整理までで完結している。授業改善にも重点を置いた授業研究サイクルを整え、研修を推進したい。 【学校自己評価 A B評価 97.9%】</li> <li>・県外出張については、県外出張報告会を企画し、校内教職員に向けて研修内容について伝達し、共有を図った。県内出張については、学部や科、寄宿舍の実情に合わせて、報告書の回覧や口頭伝達を行ってきた。</li> <li>・県内出張(教育センター研修、授業参観など)については、簡易的な報告に終わることも多かった。報告の共有方法については、今一度検討していきたい。 【学校自己評価 A B評価 87.9%】</li> <li>・外部講師招へい研修は、ほぼすべての教職員にとって有意義な研修となっている。</li> <li>・専攻科では、今年度、中心授業および外部講師招へい研修は行っておらず、物足りなさを感じる教員がいた。どのグループでも外部講師を招へいしての質の高い研修会を企画したい。 【学校自己評価 A B評価 98.0%】</li> </ul>
<p>(幼小学部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握 -視機能評価の共有</li> </ul>	



<p>自ら行動するための基礎的な力を身に付ける授業づくり ～「主体的・対話的で深い学び」の視点から教科・領域をつなぐ～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-行動観察の蓄積</li> <li>・授業設計・授業実践</li> <li>・授業評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善・教科横断的な支援の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立って、授業設計・授業実践に取り組むことができた。</li> <li>・学部で設定した事例児においては、「深い学びの姿」を引き出すための有効な支援について、教科横断的・総合的に整理・集約することができた。</li> <li>・小学部では、ICT機器を活用した授業研究についても取り上げることができた。</li> </ul>
<p>（中学部） 社会生活の基礎を培う授業づくり ～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して・個に応じた支援～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>-視機能評価の共有</li> <li>-行動観察の蓄積</li> <li>-ICF関連図・キャリア発達段階表の活用</li> <li>・授業設計・授業実践</li> <li>・授業評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善・次時次単元</li> <li>-「つなぐシート」を活用した授業改善、時事の授業設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を通して、事例生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿、特に授業毎に設定した「深い学びの姿」に迫ることができた。</li> <li>・授業評価では、事例生徒が「深い学びの姿」へ至るまでの「学びのプロセス」全体を分析した。授業のどの段階でどの程度目標に到達しているかについて、きめ細かく見とることができた。</li> <li>・教科・領域を越えて、学習のレディネス条件や支援の共通項を整理し、教科学習を支えるトータルアプローチとして、それぞれの授業に反映させることもできた。</li> </ul>
<p>（高等部普通科） 社会自立の力を高める授業づくり ～指導に生かす評価の工夫～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>-視機能評価の共有</li> <li>-行動観察の蓄積</li> <li>・授業設計・授業実践</li> <li>・授業評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善および他教科・他領域への汎用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究では、「自己との対話」、いわゆる「一人思考」に焦点を当て；事例生徒の学びの深まりを目指した授業づくりを追求することができた。</li> <li>・授業の振り返りでは、教師の支援の点検・見直しはもちろん、事例生徒の学びの深まりについても、評価基準を作成・共有し、科内の教師が、共通の指標をもって、生徒の学びを見とることができた。</li> </ul>
<p>（高等部専攻科） 職業能力を高めるための支援の工夫 ～将来の目標実現に向けて力を身に付ける～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>-視機能評価の共有</li> <li>・授業設計・授業実践</li> <li>・授業評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善</li> <li>・ICT機器活用研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業設計時において、「本時において到達したい深い学びの姿」の設定、その姿への到達度を評価する「評価基準」の作成、そして、「深い学び」の姿に迫るための支援の整理をし、授業に臨むことができた。</li> <li>・次年度のデジタル教科書の導入を見据え、科内でスキルアップ研修を企画・実施し、科全体のICT機器活用能力の向上にも努めた。</li> </ul>

<p>(寄宿舍) 個々に応じた自立に向けた力を身に付けるための支援の工夫 ～舎生の実態に応じた生活支援の工夫を目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握と生活環境の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>-視機能評価の共有</li> <li>-ICF関連図の活用</li> <li>-行動要素一覧による生活課題の洗い出し</li> </ul> </li> <li>・生活指導・支援の実践(事例研究)</li> <li>・事例研究の振り返り(外部講師を招へいした事例研究発表会の実施)</li> <li>・指導の見直し・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントでは、客観的な指標(ICF関連図、行動要素一覧)を用いるとともに、複数の目による多角的な実態把握を行い、よりの確な課題分析、目標設定につなげることができた。</li> <li>・3つの事例研究を通して、事例舎生の生活課題の見立て、課題解決に向けた支援について、定期的・継続的に点検することができた。</li> </ul>
--	--	--

令和5年度	
研修の目的	研修内容
<p>(全校) 一人一人が社会に生きる確かな力をつけるための支援の工夫 ～自分の考えや行動を広げ深める学びを目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・科、寄宿舍各研修グループで、それぞれの研修テーマに迫るべく研修計画・内容・方法等を設定し、グループ研修を推進する。また、研修を通して視覚障害幼児児童生徒の学びやすさ(教材・支援・環境調整)を蓄積する。</li> <li>・学部・科の授業研究では、幼児児童生徒が「思考を広げ深める姿」を引き出す授業を計画・展開する。学習評価では、「思考・判断・表現」に焦点を当て、評価規準や評価の観点、評価方法を整理し「思考の深まり」を見とる。寄宿舍では、舎生の「自らの生活を考え楽しむ力」を育むべく事例研究を進める。定期的かつ継続的な見とりを通して、支援の見直し・修正を重ねる。</li> <li>・校外研修(研修関係の出張)での学びについては、校内で共有する。県外出張については、年度末に全校で、県内出張は、各研修グループ毎に報告会を行う。報告書を作成した場合には、回覧及びデータ保存し、伝達講習とする。</li> <li>・すべての研修グループで、外部講師を招へいしての授業研究会・事例検討会を実施する。客観的かつ専門的な視点から、授業や事例研究についての指導・助言をいただく機会を設ける。</li> </ul>
<p>(幼小学部) 「自分から触って確かめる幼児・自分で確かめ、考え、行動する児童を育てる ～幼児児童が思考する授業を目指して～」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマルアセスメント(視能訓練士による評価)の共有</li> <li>・インフォーマルアセスメント(教師による行動観察)の蓄積</li> <li>・事例児の「目指す姿」「思考する姿」の具体化と共有</li> <li>・「思考力・判断力。表現力等」の目標に焦点を当てた授業設計</li> <li>・事例児を設定しての授業実践(一人1授業公開)</li> <li>・授業評価・学習評価(振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言)</li> <li>・授業改善および教科横断的な支援の整理</li> </ul>
<p>(中学部) 「自己選択・自己決定」のできる生徒を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマルアセスメント(視能訓練士による評価)の共有</li> <li>・インフォーマルアセスメント(教師による行動観察)の蓄積</li> </ul>

<p>～生徒自らが考え、判断し、課題を解決する授業を目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例生徒の「自己選択・自己決定（＝思考・判断・表現）する姿」の具体的行動化と共有</li> <li>・「思考力・判断力。表現力等」の目標に焦点を当てた授業設計</li> <li>・授業実践（一人1授業公開）</li> <li>・授業評価・学習評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善の追跡・次時の授業設計</li> </ul>
<p>（高等部普通科） 「目標実現のために努力できる生徒を目指して」 ～思考力・判断力・表現力を育てる授業づくりと評価を通して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握（視機能評価の共有、行動観察、各教科の課題の洗い出し）</li> <li>・「思考力・判断力。表現力等」の目標に焦点を当てた授業設計</li> <li>・授業実践（一人1授業公開）</li> <li>・授業評価・学習評価（振り返り・事後検討会・外部講師による指導助言）</li> <li>・授業改善の追跡と生徒の変容のみとり</li> </ul>
<p>（高等部専攻科） 「職業能力を高めるための支援の工夫」 ～将来の目標実現に向けて思考力の向上を図る～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握（視機能評価の共有および指導案への反映）</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業設計</li> <li>・授業実践（一人1授業公開）</li> <li>・振り返りと授業改善</li> <li>・ICT機器活用研修の実施</li> <li>・実技研修の実施</li> </ul>
<p>（寄宿舍） 「将来の豊かな生活に向けて、個々に応じた自立に向けて努力できる舎生の育成を目指して」 ～自らの生活を考え楽しむ力を高めるための活動づくりや支援の工夫～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例舎生の実態把握と生活環境把握（視機能評価の共有、ICF関連図・行動要素一覧の活用）</li> <li>・「自らの生活を考え楽しむ力」の具体化</li> <li>・課題分析・目標設定・支援計画の作成</li> <li>・「自らの生活を考え楽しむ力」を高める生活支援の実践（事例研究）</li> <li>・実践の検証・評価（振り返り・研修会）</li> <li>・指導の見直し・改善</li> </ul>

## 6 防災対策について

南海トラフ地震や台風などの災害に備え、職員の意識を高め実践できるようマニュアルをもとに対策を講じている。

### 令和4年度実績

想定	実施予定日	時間帯	訓練場所	内容
地震・火災	4月13日	下校後	寄宿舍	避難訓練
地震・火災	4月18日	午後	学校	避難訓練
火災	5月11日	下校後	寄宿舍	避難訓練
地震	8月30日	全日	学校	連絡・引き渡し訓練
地震・火災	9月14日	下校後	寄宿舍	避難訓練
火災	10月19日	下校後	寄宿舍	避難訓練（予告なし）
地震・火災	10月19日	午後	学校	避難訓練（予告なし）

### 令和5年度計画

想定	実施予定日	時間帯	訓練場所	内容
地震・火災	4月13日	下校後	寄宿舍	避難訓練
地震・火災	4月24日	午後	学校	避難訓練
火災	5月11日	下校後	寄宿舍	避難訓練
地震	9月1日	全日	学校	連絡・引き渡し訓練
地震・火災	9月12日	下校後	寄宿舍	避難訓練
火災	10月19日	下校後	寄宿舍	避難訓練（予告なし）
地震・火災	12月7日	午後	学校	避難訓練（予告なし）

## 7 学校開放について

学校の施設設備を有効に活用し、地域に開かれた学校となるため、学校行事に支障のない範囲で積極的に開放している。

### 令和3年度実績

	登録 団体数	利用 延人数 (人)	利用 延日数 (日)	利用者 負担金 (電気料) (円)	種 目
運動場	9	442	27	0	グラウンドソフトボール、 ソフトボール
講 堂		0	0	0	
体育館		10	1	367	ゴールボール
合 計		452	28	367	

### 令和4年度実績

(令和5年3月31日現在)

	登録 団体数	利用 延人数 (人)	利用 延日数 (日)	利用者 負担金 (電気料) (円)	種 目
運動場	9	559	33	0	グラウンドソフトボール、 ソフトボール
講 堂		0	0	0	
体育館		46	6	0	ゴールボール ブラインドテニス
合 計		605	39	0	

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法(第1条、第2条) 学校教育法(第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、 第77条、第78条、第79条、第82条) 学校教育法施行規則 学校保健安全法(第5条) 学校給食法(第4条) 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律 (第1条、第2条、第3条) 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法(第137条) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第33条) 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法(第21条、第22条) 学校保健安全法(第15条、第27条) 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法(第3条、第4条) 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 特別支援学校への就学奨励に関する法律(第1条、第2条、第3条) 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱

## 学校施設の概要

### 1 面積及び所有区分

(令和5年3月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学校敷地	18,973.39	18,973.39					
内 訳	校舎敷地	12,148.00	12,148.00				
	運動場敷地	6,825.39	6,825.39				
校 舎	建 1,686.09	1,686.09					
	延 5,120.95	5,120.95					
体 育 館	建 833.25	833.25					
	延 819.99	819.99					
その他の建物	建 480.66	480.66					
	延 479.24	479.24					
寄 宿 舎	建 962.00	962.00					
	延 2,283.20	2,283.20					
プ ー ル	2 基	2 基					(大)25m4□-入 (小)6m×3.5m
職員住宅	3 戸	3 戸					

2 配置・規模等  
 (1)校舎等の配置図



(2)学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	18,973.39m <sup>2</sup>	5,120.95m <sup>2</sup>	6,825.39m <sup>2</sup>
県平均	18,814.78m <sup>2</sup>	6,914.52m <sup>2</sup>	5,244.39m <sup>2</sup>



## 在 籍 生 徒 調

( 令和 5 年 4 月 1 日現在 )

学年	学科別		幼 稚 部			
	区分		定員	男子	女子	計
3才	入学者				1	1
		増加	-----			
		減少	-----			
現 在				1	1	
4才	入学者			1		1
		増加	-----			
		減少	-----			
	4才時当初			1		1
		増加	-----			
		減少	-----			
現 在			1		1	
幼 稚 部 計				1	1	2

学年	学科別		小 学 部			
	区分		定員	男子	女子	計
4年	入学者			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	2年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	3年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	4年時当初			2	1	3
	増加	-----				
	減少	-----				
現 在			2	1	3	

学年	学科別		小 学 部			
	区分		定員	男子	女子	計
6年	入学者			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	2年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	3年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	4年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少	-----			
	5年時当初			2	1	3
		増加	-----			
		減少			1	1
	6年時当初			2		2
		増加	-----			
		減少	-----			
現 在			2		2	
小 学 部 計				4	1	5

学年	学科別		中 学 部			
	区分		定員	男子	女子	計
1年	入 学 者			3		3
		増 加 減 少				
	現 在			3		3
3年	入 学 者					
		増 加 減 少			1	1
	2年時当初				1	1
		増 加 減 少				
	3年時当初				1	1
		増 加 減 少				
現 在				1	1	
中 学 部 計				3	1	4

学年	学科別		高等部専攻科 理療科			
	区分		定員	男子	女子	計
2年	入 学 者		8	1	1	2
		増 加 減 少				
	2年時当初			1	1	2
		増 加 減 少				
現 在			1	1	2	
3年	入 学 者		8	2	1	3
		増 加 減 少		1	(1)	2
	2年時当初			1		1
		増 加 減 少				
	3年時当初			1		1
		増 加 減 少				
現 在			1		1	
高等部専攻科 理療科 計				2	1	3

学年	学科別		高等部本科 普通科			
	区分		定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		8		1	1
		増 加 減 少				
	現 在				1	1
2年	入 学 者		8		1	1
		増 加 減 少				
	2年時当初				1	1
		増 加 減 少				
現 在				1	1	
3年	入 学 者		8	1	2	3
		増 加 減 少				
	2年時当初			1	2	3
		増 加 減 少				
	3年時当初			1	2	3
		増 加 減 少				
現 在			1	2	3	
高等部本科 普通科 計				1	4	5

学年	学科別		高等部専攻科 保健理療科			
	区分		定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		8	1		1
		増 加 減 少				
	現 在			1		1
2年	入 学 者		8		1	1
		増 加 減 少			(1)	1
	2年時当初				2	2
		増 加 減 少				
現 在				2	2	
3年	入 学 者		8	2	1	3
		増 加 減 少				
	2年時当初			2	1	3
		増 加 減 少				
	3年時当初			2	1	3
		増 加 減 少				
現 在			2	1	3	
高等部専攻科 保健理療科 計				3	3	6

### 入学志願者及び入学者数調

区 分		平成31年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
学科別		本 通 科	普 攻療 科	専 攻療 科	専 攻療 科	理 攻療 科	保 攻療 科	本 通 科	普 攻療 科	専 攻療 科	本 通 科	普 攻療 科	専 攻療 科	保 攻療 科	本 通 科	普 攻療 科	専 攻療 科	保 攻療 科
	生徒定員 (A)		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
募集者数 (B)		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
志願者数	男	3	1	1	2	0	2	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	
	女	2	0	0	1	1	0	2	2	0	1	3	0	1	0	0	0	
	計 (C)	5	1	1	3	1	2	3	4	2	1	4	0	1	0	1	1	
受検者数	男	3	1	1	2	0	2	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	
	女	2	0	0	1	1	0	2	2	0	1	3	0	1	0	0	0	
	計 (D)	5	1	1	3	1	2	3	4	2	1	4	0	1	0	1	1	
合格者数	男	3	1	1	2	0	2	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	
	女	2	0	0	1	1	0	2	1	1	1	1	2	1	0	0	0	
	計 (E)	5	1	1	3	1	2	3	3	3	1	2	2	1	0	1	1	
志願倍率 (C)/(B)		0.63	0.13	0.13	0.38	0.13	0.25	0.38	0.50	0.25	0.13	0.50	0.00	0.13	0.00	0.13	0.13	
受検倍率 (D)/(B)		0.63	0.13	0.13	0.38	0.13	0.25	0.38	0.50	0.25	0.13	0.50	0.00	0.13	0.00	0.13	0.13	
入学者数	男	3	1	1	2	0	2	1	2	2	0	1	0	0	0	0	1	
	女	2	0	0	1	1	0	2	1	1	1	1	1	1	0	0	0	
	計 (F)	5	1	1	3	1	2	3	3	3	1	2	1	1	0	1	1	
充足率 (F)/(A)		0.63	0.13	0.13	0.38	0.13	0.25	0.38	0.38	0.38	0.13	0.25	0.13	0.13	0.00	0.13	0.13	

### 卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部		1			1
その他高等学校等					0
大学等	大学(学部)		2		2
	短期大学(本科)				0
	大学・短大の通信教育学部等				0
	その他大学等				0
特別支援学校高等部専攻科			1		1
専修学校(専門課程)					0
専修学校(一般課程)・各種学校					0
公共職業能力開発施設等					0
就 職				1	1
上 記 以 外			4	1	5
不詳・死亡					0
計 (卒業者総数)		1	7	2	10

(再掲) 「上記以外」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					0
障害者支援施設			2		2
(うち就労系支援事業利用者)		( )	( 2 )	( )	( 2 )
医療機関					0
計			2		2

(注) 1 本表は、特別支援学校において、監査実施年度の5月1日現在で調製する。

(教育委員会に提出する「学校基本調査」の内容を記載する。)

2 1の取扱いが困難な場合は、監査実施年度の4月1日現在で調製する。

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和5年4月1日現在) (単位:人)

市町名	浜松市	静岡市	袋井市	長泉町	掛川市	磐田市	沼津市	焼津市	合計
生徒数	12	4	2	2	2	1	1	1	25
構成比%	48.0	16.0	8.0	8.0	8.0	4.0	4.0	4.0	100%

(2) 通学方法 (令和5年4月1日現在) (単位:人)

区分	自家用車	スクールバス、公共交通機関	スクールバス	自家用車、スクールバス	徒歩	寄宿舎	合計
生徒数	7	3	1	1	2	11	25
構成比%	28.0	12.0	4.0	4.0	8.0	44.0	100%

### 2 部(クラブ)の加入状況

中学部 (令和5年4月1日現在) (単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	1	3		4	
男子	1年	2	0	1	3
	2年	0	0	0	0
	3年	0	0	0	0
	計(A)	2	0	1	3
	構成比	66.7	0.0	33.3	100%
女子	1年	0	0	0	0
	2年	0	0	0	0
	3年	1	0	0	1
	計(B)	1	0	0	1
	構成比	100.0	0.0	0.0	100%
合計	(A+B)	3	0	1	4
	構成比	75.0	0.0	25.0	100%

高等部 (令和5年4月1日現在) (単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	1	3		4	
男子	1年	0	0	1	1
	2年	0	0	1	1
	3年	3	0	1	4
	計(A)	3	0	3	6
	構成比	50.0	0.0	50.0	100%
女子	1年	1	0	0	1
	2年	1	2	1	4
	3年	1	2	0	3
	計(B)	3	4	1	8
	構成比	37.5	50.0	12.5	100%
合計	(A+B)	6	4	4	14
	構成比	42.9	28.6	28.6	100%

3 障害別児童生徒数

(令和5年4月1日現在)(単位:人)

区分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合計	学級数
幼稚部	単一障害								1
	-								0
	-								0
	合計								1
小学部	単一障害								1
	重複障害								2
	肢体重複								0
	合計								3
中学部	単一障害								2
	重複障害								1
	肢体重複								0
	合計								3
高等部	単一障害								8
	重複障害								0
	肢体重複								0
	合計								8

4 起因疾患別児童生徒数

(令和5年4月1日現在)(単位:人)

区分	緑内障	未熟児 網膜症	網膜色素 変性症	視神経 委縮	硝子体 網膜症	網膜剥離	その他	計
幼稚部								
小学部								
中学部								
高等部								
計								

預 金 調

(令和5年3月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 円	摘 要
浜松磐田信用金庫 葵西支店	無利息型 普通預金	16920	静岡県立浜松視覚特別支援学校 資金前渡者 校長 園田 一哉	0	給料
浜松磐田信用金庫 葵西支店	"	25857	自振口 静岡県立浜松視覚特別支援学校 資金前渡者 校長 園田 一哉	0	電気料・電話料 上下水道料・郵便料 社会保険料
浜松磐田信用金庫 葵西支店	"	457331	静岡県立浜松視覚特別支援学校 奨励費代理受領者 園田 一哉	0	就学奨励費受領
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和5年3月31日現在)

(単位：枚、円)

区分	種類	3 年 度						4 年 度						摘 要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵券	1 円券	20	20	0	0	8	8	12	12	0	0	4	4	8	8	公 務 連 絡 用
	5 円券	39	195	0	0	0	0	39	195	0	0	0	0	39	195	
	10 円券	34	340	0	0	24	240	10	100	0	0	4	40	6	60	
	84 円券	50	4,200	100	8,400	51	4,284	99	8,316	0	0	61	5,124	38	3,192	
	120 円券	29	3,480	0	0	15	1,800	14	1,680	0	0	10	1,200	4	480	
	280 円券	33	9,240	0	0	1	280	32	8,960	0	0	11	3,080	21	5,880	
	レターパ ック プラス	0	0	8	4,160	8	4,160	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		/	17,475	/	12,560	/	10,772	/	19,263	/	0	/	9,448	/	9,815	



委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年3月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額(円)		
					令和3年度	令和4年度	うち、令和3年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	132,000	/
			特別支援学校費	特別支援学校管理費		8,616,806	
			学校教育費	健康体育費		12,561,450	
計					24,574,062	21,310,256	0
(14)工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	10,890,000	/
計					2,409,000	10,890,000	0
(16)公有財産購入費					/		/
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	2,516,800	/
計					3,497,010	2,516,800	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	53,600	/
計					39,500	53,600	0
(21)補償、補填及び賠償金					/		/
計					0	0	0

委託料に関する調

(令和3年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額(円)	契約金額(円)			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理(配膳)業務委託	(株)シーアンドシー	42,955,126	40,788,000	0	全体額 40,788,000 令和3年度分 13,596,000	一般	2.8.13 ~ 5.7.31	累計金額 3.5.31 1,133,000 3.6.30 1,133,000 3.7.30 1,133,000 3.8.31 1,133,000 3.9.30 1,133,000 3.10.29 1,133,000 3.11.30 1,133,000 3.12.27 1,133,000 4.1.31 1,133,000 4.2.28 1,133,000 4.3.31 1,133,000 4.4.28 1,133,000 小計 13,596,000	(9,064,000)	学校給食及び寄宿舎給食の調理配膳 給食喫食回数598回 舎食喫食回数1,084回	2長期
2	通学バス輸送業務委託	浜松バス(株)	36,173,940	25,003,308	0	全体額 25,003,308 令和3年度分 8,334,432	一般	3.4.1 ~ 6.3.31	3.5.31 694,536 3.6.30 694,536 3.7.30 694,536 3.8.31 694,536 3.9.30 694,536 3.10.29 694,536 3.11.30 694,536 3.12.27 694,536 4.1.31 694,536 4.2.28 694,536 4.3.31 694,536 4.4.28 694,536 小計 8,334,432		児童生徒通学用及び校外学習等送迎用バス1台 運行日数612日	3長期
3	エレベータ保守点検業務委託	東芝エレベータ(株)静岡支店	673,200	673,200	0	673,200	随契	3.4.1 ~ 4.3.31	3.10.29 359,700 4.4.28 313,500 小計 673,200		義務教育棟設置エレベータ1基 定期点検年4回 遠隔点検毎月 年次点検1回	随契 2号 (不適)
4	不燃ごみ収集運搬処分業務委託	(株)三共	65,340	39,930	0	39,930	随契	3.4.1 ~ 4.3.31	3.10.29 18,150 4.4.28 21,780 小計 39,930		給食調理(配膳)業務により発生する不燃ごみ収集運搬処分22回	随契 1号 (少額)
5	水質検査業務委託	(一社)浜松市薬剤師会 浜松環境衛生研究所	940,940	940,940	0	940,940	随契	3.4.1 ~ 4.3.31	3.10.29 410,960 4.4.28 529,980 小計 940,940		水道法の規定に基づく水質検査毎月	随契 1号 (少額)
6	B型肝炎予防接種業務委託	前嶋内科 前嶋満弘	1人当たり 接種前検査 9,020 接種 7,150 接種後検査 7,480	1人当たり 接種前検査 9,020 接種 7,150 接種後検査 7,480	0	1人当たり 接種前検査 9,020 接種 7,150 接種後検査 7,480	随契	3.5.20 ~ 4.3.31	4.4.27 110,110		B型肝炎予防接種及び接種前後検査 9人分	随契 2号 (不適) 単価 契約
7	自動扉保守点検業務委託	中日本オートドア(株)	82,500	82,500	0	82,500	随契	3.4.1 ~ 4.3.31	3.10.29 41,250 4.4.28 41,250 小計 82,500		自動扉の保守点検管理業務 定期点検2回 対象自動扉3台	随契 1号 (少額)
8	グリストラップ清掃、産業廃棄物収集運搬処分業務委託	東名興産(株)	33,000	33,000	0	33,000	随契	3.8.17 ~ 3.9.30	3.11.30 33,000		グリストラップ清掃及び産業廃棄物収集運搬及び処分 1回400L	随契 1号 (少額)
9	専用水道点検管理業務委託	大学産業(株)	378,400	330,000	0	330,000	随契	3.4.1 ~ 4.3.31	3.10.29 165,000 4.4.28 165,000 小計 330,000		専用水道設備定期点検毎月 滅菌装置保守点検4回	随契 1号 (少額)
10	GHP保守点検業務委託	(株)旭冷暖	242,000	242,000	0	242,000	随契	3.6.15 ~ 3.7.9	3.8.31 242,000		GHPの保守点検	随契 1号 (少額)







負担金支出調

(令和3年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国盲学校普通教育連絡協議会年会費	全国盲学校普通教育連絡協議会	会 則	全国盲学校普通教育連絡協議会	円 5,500	3.5.21
2	中部地区盲学校長会会費	中部地区盲学校長会	規 約	中部地区盲学校長会	3,000	3.5.27
3	中部地区盲学校副校長・教頭会会費	中部地区盲学校副校長・教頭会	会 則	中部地区盲学校副校長・教頭会	1,000	3.7.9
4	全国盲学校長会年会費	全国盲学校長会	会 則	全国盲学校長会	20,000	3.7.12
5	日本弱視教育研究会年会費	日本弱視教育研究会	会 則	日本弱視教育研究会	6,000	3.8.6
6	全国盲学校副校長・教頭会年会費	全国盲学校副校長・教頭会	会 則	全国盲学校副校長・教頭会	4,000	3.9.7
計		6 件			39,500	

(令和4年度)

(令和5年3月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国盲学校普通教育連絡協議会年会費	全国盲学校普通教育連絡協議会	会 則	全国盲学校普通教育連絡協議会	円 5,000	4.5.26
2	中部地区盲学校長会会費	中部地区盲学校長会	規 約	中部地区盲学校長会	3,000	4.6.8
3	中部地区盲学校副校長・教頭会会費	中部地区盲学校副校長・教頭会	会 則	中部地区盲学校副校長・教頭会	1,000	4.7.15
4	全国盲学校長会年会費	全国盲学校長会	会 則	全国盲学校長会	20,000	4.7.27
5	全国盲学校副校長・教頭会年会費	全国盲学校副校長・教頭会	会 則	全国盲学校副校長・教頭会	4,000	4.9.29
6	全国盲学校長会秋季研究協議会福島大会参加費	全国盲学校長会	開催要領	全国盲学校長会	6,000	4.10.7
7	日本弱視教育研究会年会費	日本弱視教育研究会	会 則	日本弱視教育研究会	6,000	4.10.14
8	盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座講習料	筑波大学	開催要領	盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座	8,600	5.1.31
計		8 件			53,600	

建築工事

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初金額	契約金	
					当初額	変更増減額
1	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 エレベーターロープ各種交換工事	浜松市中央区 葵西地内	649,000	649,000	0
2	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 寄宿舎空調設備設置工事	浜松市中央区 葵西地内	8,360,000	8,140,000	99,000
3	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 廊下保健室他天井及び壁面塗装工事	浜松市中央区 葵西地内	1,320,000	868,000	0
4	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 体育館床修繕工事	浜松市中央区 葵西地内	1,210,000	1,144,000	0
5	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 新館廊下照明改修工事	浜松市中央区 葵西地内	429,000	429,000	0
6	教育管理費	令和4年度 浜松視覚特別支援学校 廊下手洗い器改修・附設工事	浜松市中央区 葵西地内	1,430,000	1,430,000	0
		合計	5件	13,398,000	12,650,000	99,000

工事調

(令和4年度)

額	契約締結方法	受注者	発注(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産関係	摘要
649,000	随買	東芝エレベーター 静岡支店	4.9.5 4.11.18	649,000	視覚教育棟設置のエレベーターの、老朽化した各種ロープの交換。 メインロープ 5本 副選機ロープ 1本 のりば戸連結ロープ 3本	-	令渡日 4.8.3 支払日 4.12.23 随買1号(少額)
8,239,000	指名	シンプラ設備㈱	4.9.15 4.12.14	8,239,000	寄宿舎のボイラー設備(設備の劣)を更新。 (既設撤去無し) ルームエアコン取付、配管工事 11台、11箇所 36型 9台、9箇所 28型 9台、9箇所	-	令渡日 4.8.3 支払日 5.1.31
868,000	随買	謝美化興業	4.11.10 5.1.10	868,000	新館各所の天井、壁の塗装工事。 1階保健室 廊下等C 計126㎡ 2階生理室 廊下等 計100.0㎡ 3階廊下、取付3、専 理3教室 計142.9㎡	-	令渡日 4.10.26 支払日 5.2.6 随買1号(少額)
1,144,000	随買	エスケード㈱	4.12.6 5.1.12	1,144,000	老朽化した体育館床の修繕。 床板部分張替 10枚 既設床面研削、及び塗 装(油性水性ポリウレタ ン塗装 3回塗) 474.6㎡ ライン工 1式	-	令渡日 4.11.16 支払日 5.2.6 随買1号(少額)
429,000	随買	栄電工工業㈱	5.1.17 5.8.13	429,000	新館の照明器具をLED D形遠達型のものに改 修。 取替 22台 新設 2台	-	令渡日 4.12.12 支払日 5.4.7 随買1号(少額)
1,430,000	随買	亜興配管工事㈱	5.3.29 5.9.29	1,430,000	廊下手洗い器の改修及 び増設。 改修：洗面器 取付器 交換 1台、小型電気 器具 1台、セーモ 加熱、洗面器 1台 増設：洗面器 1台、 各1セット	-	令渡日 5.3.15 支払日 5.9.29 令和4年度繰 上金 P56/No.1
12,749,000				11,319,000			

繰越工事

整理番号	予算科目	事業(箇所)名 及び内訳	事業箇所	契約額	前年度施行 支払額	繰越額
1	教育管理費	令和4年度 浜松 児童特別支援学校 厨房手洗い器改 修・増設工事	浜松市中区葵西 地内	円 1,430,000	円 0	円 1,430,000
		合計		円 1,430,000	円 0	円 1,430,000

事業調

(令和4年度から令和5年度へ繰越分)  
(令和5年3月31日現在)

同左支出済額	支出未済額	契約締結 方法	受注者 (受託者)	着手 完成(税) 年月日	繰越理由
円 0	円 1,430,000	随契	匠興配管工事 ㈱	5. 3. 29 5. 9. 29	「令和4年度中に契約を済ませて、 繰越した後施工する」という教育施設 課からの指示による。
円 0	円 1,430,000				



## 公 有 財 産 調

(令和4年度)

区 分	令和4年3月31日現在		増		減		令和5年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,718,303		千円 0		千円 21,406		千円 1,696,897	
土地	m <sup>2</sup> 18,973.39	1,441,978	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 18,973.39	1,441,978	
立木竹	本 77	1,005	本		本		本 77	1,005	
建物	m <sup>2</sup> $\frac{3,962.00}{8,703.38}$	155,304	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	14,770	m <sup>2</sup> $\frac{3,962.00}{8,703.38}$	140,534	
工作物	個 132	120,016	個		個	6,636	個 132	113,380	
普通財産		26,280		0		870		25,410	
土地	m <sup>2</sup> 297.97	22,403	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup> 297.97	22,403	
建物	m <sup>2</sup> $\frac{96.59}{183.31}$	3,877	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	870	m <sup>2</sup> $\frac{96.59}{183.31}$	3,007	
工作物	個 4	0	個		個		個 4	0	
公有財産に準ずるもの		216						216	
電話加入権	件 6	216	件		件		件 6	216	

## 借 地 借 家 等 調

(令和5年3月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	道路敷地	浜松市中区 葵西五丁目 283番地3	道 路 敷 地	道 路 敷 地	75mm L=5.8m	円	円 免除	31. 4. 1 ~ 36. 3. 31	浜松市長	給水管 設 置 (占用許可)
2	土地	道路敷地	浜松市中区 葵西五丁目 283番地3	道 路 敷 地	道 路 敷 地	150mm L=1.5m 200mm L=1.5m		免除	5. 4. 1 ~ 10. 3. 31	浜松市長	排水管 設 置 (占用許可)
3	土地	水路敷地	浜松市中区 葵西五丁目 283番地3	河 川 敷 地	河 川 敷 地	75mm L=1.24m		免除	31. 4. 1 ~ 36. 3. 31	浜松市長	給水管 設 置 (占用許可)
計								0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)

(令和5年3月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額				
				2年度	3年度	4年度	5年度
長期 継続 契約	給食調理(配膳) 業務委託	給食調理 (配膳)業務 (契約日) 令和2年8月13日	円 40,788,000	円 9,064,000	円 13,596,000	円 13,596,000	円 4,532,000
	通学バス輸送 業務委託	通学バス輸送 1台 (契約日) 令和3年4月1日	円 25,003,308	円	円 8,334,432	円 8,334,432	円 8,334,444

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年3月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	電柱4本 支線柱2本 支線5本	1,500	円 16,500	30.4.1 ~ 35.3.31	西日本電信電話(株) 静岡支店長	電柱敷地
2	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	支線柱1本 支線3本	1,500	6,000	30.4.1 ~ 35.3.31	中部電力(株) 浜松営業所長	電柱敷地
3	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	0.07 m <sup>2</sup>		免除	4.4.1 ~ 5.3.31	浜松市長	住居表示板設置
4	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	0.64 m <sup>2</sup>		免除	3.4.1 ~ 8.3.31	浜松市長	道路反射鏡設置
5	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	0.36 m <sup>2</sup>		免除	3.4.1 ~ 8.3.31	浜松市長	道路反射鏡設置
6	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	74.82 m <sup>2</sup>		免除	3.4.1 ~ 8.3.31	浜松市長	排水路設置
7	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	249.86 m <sup>2</sup>		免除	3.4.1 ~ 8.3.31	浜松市長	市道用地
8	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	地下埋設物 52 m		免除	3.4.1 ~ 6.3.31	浜松市長	排水施設用地
9	建物	事務所建	浜松市中区葵西五丁目9番1号	新館RC4階建	新館RC4階建	14.27 m <sup>2</sup>		免除	3.4.1 ~ 6.3.31	静岡県立浜松視覚特別支援学校PTA会長	購買設置
10	工作物	囲障	浜松市中区葵西五丁目9番1号	金網フェンス	金網フェンス	0.12 m <sup>2</sup>		免除	4.4.1 ~ 5.3.31	葵西自治会長	海拔表示板設置
合計								22,500			

普通財産・借受財産貸付調

(令和5年3月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又積 は 面 積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可 期間	貸付又は使用許可を受けた 者の氏名	貸付・使用許可 目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	浜松市中区葵西五丁目9番1号	学校敷地	学校敷地	道路標識 3本		円 免除	2.4.1 ~ 5.3.31	浜松中央警察署長	交通標識用地
2	土地	宅地	浜松市中区葵西三丁目12番28号	宅地	宅地	電柱1本 支線1本	1,500	円 3,000	4.4.1 ~ 7.3.31	中部電力パワーグリッド(株)	電柱敷地
合計								円 3,000			

## 職員公舎管理状況調

(令和5年3月31日現在)

整理 番号	所 在 地	建 築 年 月	構 造	管理戸(室) 数(A)	入居戸(室) 数(B)	Bの内他事務所 職員入居戸 (室)数	空屋戸(室) 数(A-B)	摘 要
1	浜松市中区葵西 三丁目12番28号	S54 ・2	RC2F 1棟	3	2	0	1	
	計			3	2	0	1	

## 主要備品調

(令和5年3月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	02-01	その他の情報処理機器	点字教材作成装置	年間50日 展示用	昭和57年12月	9,300,000 <sup>円</sup>
2	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	デスクトップパソコン他 XL510AV-AGGB他	年間150日 情報授業用	平成23年9月	6,823,530
3	10-02	その他の語学用器具	触覚読書装置 オプタコン	年間50日 展示用	昭和59年11月	5,750,000
4	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	デスクトップパソコン他 ESPRIMO D588/B他	年間150日 情報授業用	令和2年1月	5,060,550
5	04-01	その他一般機器	筋電計	年間10日 専攻科実習用	平成3年1月	3,480,000
6	05-06	その他の環境化学機器	放射能測定検査機器 TN300B他	年間20日 食材検査用	平成24年3月	2,730,000
7	04-02	その他の衛生検査機器	ポリグラフ 三栄測器	年間1日程度 専攻科実習用	昭和55年12月	2,728,200
8	01-13	食品保存庫	冷温庫 中西製作所ROK-40	毎日年間180日 給食保温用	平成9年3月	2,063,914
9	02-02	放送装置	放送装置 DA-23W360A	毎日年間180日 校内放送用	平成26年2月	1,890,000
10	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	両面同時印刷点字プリンタ BPW-32	毎日年間200日 教務管理用	平成13年3月	1,848,000
11	01-05	複写機	立体コピーシステム PartnerVision	年間80日 教材作成用	平成24年3月	1,472,100
12	04-01	滅菌消毒機器	ガス滅菌機 オートマチック32	年間10日 専攻科実習用	平成2年6月	1,463,000
13	01-13	加熱器具	スチームコンベクションオープン ラショナル iCombiClassic6-1/1	毎日年間180日 給食調理用	令和4年2月	1,436,600
14	04-01	その他の一般機器	心電計	年間12日 専攻科実習用	昭和60年11月	1,317,000
15	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	点字両面同時プリンタ ESA919	毎日年間200日 教務管理用	平成19年3月	1,260,000
16	04-01	その他の一般機器	SSP療法器 トリミックス303H	毎日年間140日 専攻科実習用	平成10年2月	1,234,800
17	04-01	その他の一般機器	レーザー治療器	年間15日 専攻科実習用	平成元年9月	1,180,000
18	01-05	印刷機	点字製版機 足踏	年間50日 展示用	昭和55年1月	1,150,000
19	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 THWL151ALH	毎日年間180日 給食食器洗用	平成23年3月	1,147,125
20	01-04	たな	スリムラン オカムラN957CS	毎日年間365日 図書保管用	平成5年1月	1,133,000

## 職 員 調

(令和5年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	園田 一哉				
2	教 頭	榎下 政美				
3	事務長	松浦 亜希子				
4	教 諭	池田 宏	理療			
5	"	佐藤 晴彦	理療			
6	"	日野 朋成	小			
7	"	栗田 共臣	高 数学			
8	"	林 由佳子	理療			
9	"	高山 秀一	高 数・情報			
10	"	鈴木 敬子	高 理科			
11	"	渡邊 淳	理療			
12	"	袴田 純子	小			
13	"	竹内ゆみ子	高 音楽			
14	"	新井 崇史	幼			
15	"	足立 憲彦	高 保体			
16	"	宮野 彩	小			
17	"	吉田 修一	中 英語			
18	"	鈴木 秀俊	理療			
19	"	戸塚 佳恵	幼			
20	"	神田 奈々	中 数学			
21	"	中野 崇史	中 技術			
22	"	小倉 裕二	理療			
23	"	池野 夏美	小			
24	"	鈴木 陽介	小			
25	"	杉山 通崇	高 保体			
26	"	五十嵐正吾	理療			
27	"	河野 友香	高 英語			
28	"	望月 美緒	中 社会			
29	"	高山 亮	高 理科			
30	"	山本 大祐	小			



整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
31	教諭	服部 京子	高 保体			
32	"	西本 麻衣	中 英語			
33	"	桂 大貴	中 理科			
34	"	保坂 颯希	高 国語			
35	"	佃 誠也	中 数学			
36	"	高久奈々子	小			
37	養護教諭	荒木 悠里				
38	主任実習助手	鳥越公代乃	理療実習			
39	栄養教諭	河合 明美	給食			
40	主任寄宿舎指導員	竹内 真人	寄宿舎			
41	"	加藤 千礼	寄宿舎			
42	寄宿舎指導員	門奈 和也	寄宿舎			
43	"	山村 辰徳	寄宿舎			
44		神谷 皇億	寄宿舎			
45	"	前田 琴美	寄宿舎			
46	"	岡田 昂大	寄宿舎			
47	主査	三ツ井啓記	管財・会計			
48	主事	宮木 七未	給与・会計			
49	"	小田川 紘輔	会計			
平均年数					5.2	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(臨)	青木 典子	幼			
2	"	栗田 伸夫	理療			
3	"	岡部 真佐子	理療			
4	"	押見 普司	理療			
5	"	長田 博昭	理療			
6	実習助手(臨)	安田 洋子	理療実習			
7	寄宿舎指導員(任)	青島 彰子	寄宿舎			
8	寄宿舎指導員(臨)	鈴木知代子	寄宿舎			
9	"	藤田佳代子	寄宿舎			
10	寄宿舎指導員(臨)	高石 知華	寄宿舎			

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
11	〃	富田 美香	寄宿舍			
12	乳幼児発達支援指導員	下出 信子	超早期教育相談			
13	非常勤嘱託員	影山 静雄	寄宿舍			
14	非常勤講師	足立洋一郎	高 社会			
15	非常勤労務職員	渡辺 豊	スクールバス介助			
16	〃	戸塚 茂則	環境整備			
17	〃	河村 全彦	環境整備			
18	〃	柳原 明美	コロナスタッフ			
19	〃	菊地 舞子	コロナスタッフ			
20	〃	大村 勇	コロナスタッフ			
21	学校医 健康管理医	前嶋 満弘	内科産業医			
22	学校医	戸田 行雄	耳鼻科			
23	〃	宮道 大督	眼科			
24	〃	大谷 幹尚	精神神経科			
25	〃	村上 祐介	歯科			
26	学校薬剤師	熊谷 美里	薬剤師			

## 職 員 の 年 齢 調

(令和5年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0	
20歳以上30歳未満	8	
30歳以上40歳未満	5	
40歳以上50歳未満	19	
50歳以上56歳未満	8	
56歳以上61歳未満	6	
61歳以上	3	再任用職員3名
計	49	平均年齢 47.7 歳

## 健康管理

1 令和4年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数      49人
	職員数        49人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

2 5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	1(1)人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1(1)人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	11(11)人
D 2		要経過観察	6 (6)人
D 3		医 療 不 要	28(28)人
区 分 者 計			47(47)人
未 区 分 者 数			2人
合 計			49 ( 47)人

(1) 管理区分 A ~ C 2 該当者  
に対する措置状況

必要な医療を受けさせ、超過勤務、休日勤務及び宿日直勤務をさせないようにしている。

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休	1人
イ 新規採用	1人
ウ 自己都合による未受診	人
エ その他	人
(            )	人